

Japan Connected Vehicle Business Opportunities (Japanese Version)

AN IDC CONTINUOUS INTELLIGENCE SERVICE

コネクテッドビークルは、運転者、搭乗者、車のオーナーにさまざまな機能やサービスを通じて新しい価値を提供し、自動車産業だけでなく、さまざまな事業者に対して新規の事業機会をもたらします。IDC Japan 年間情報サービス「Japan Connected Vehicle Business Opportunities (Japanese Version)」では、コネクテッドビークルのさまざまなユースケースにおける需要/顧客価値分析に基づく IT サプライヤーの事業機会の考察をはじめ、市場予測、参入プレイヤー動向、個人/事業者ユーザー調査など、国内における包括的な市場動向に関する情報を提供します。本サービスは客観的な分析、考察に基づく提言を通じて、IT サプライヤーが同市場で成功を収めるためのビジネス戦略策定、プロダクト/サービス開発などに関わる意思決定を支援します。2019 年はコネクテッドビークル関連サービスの付加価値化に寄与する技術の活用動向分析を強化しています。

Markets and Subjects Analyzed

- コネクテッドビークル市場エコシステム
- コネクテッドビークル関連サービス市場
- MaaS (Mobility as a Service) 市場
- 個人ユーザーのコネクテッドビークルユースケース
- 事業者ユーザーのコネクテッドビークルユースケース

Core Research

- コネクテッドビークル市場定義
- 国内コネクテッドビークル市場予測
- 国内コネクテッドビークル市場 個人/事業者ユーザー調査
- 国内コネクテッドビークル市場 IT サプライヤーの事業機会分析
- IDC FutureScape: Worldwide Connected Vehicle 2019 Predictions - Japan Implications

上記リサーチは市場環境などの変化に応じて変更される可能性があります。発行レポートをご覧になりたい場合は以下 Web サイトをご参照ください。: [Japan Connected Vehicle Business Opportunities \(Japanese Version\)](#).

Key Questions Answered

- 国内コネクテッドビークル市場は今後何を要因として成長するか?
- 複雑なコネクテッドビークルエコシステムにおいて、国内のさまざまな IT サプライヤーは、どのような独自の戦略や提供価値を持ち、どのような課題を抱えているか?
- IT サプライヤーにとっての具体的な事業機会とは何か?
- コネクテッドビークルのさまざまなユースケースに対し、どのユーザーから、どのレベルの需要があるか?
- どのユースケースに対し、どのユーザーが、どのレベルの顧客価値を認めるか?

Companies Analyzed

IDC では、次のベンダーの企業戦略、競合状況などの比較/分析を行います (アルファベット順、50 音順)。

HERE テクノロジーズ、IBM、KDDI、NTT コミュニケーションズ、NTT ドコモ、NVIDIA、アカマイテクノロジーズ、インテル、Veeva、ウェア、沖電気工業、ソフトバンク、ディー・エヌ・エー、東芝、トヨタ自動車、ノキアソリューションズ&ネットワークス、日産自動車、パイオニア、日立、ファーウェイテクノロジーズ、富士通、本田技研工業、マイクロソフト、その他